

(別添)

独立行政法人地域医療機能推進機構
湯布院病院
公的医療機関等2025プラン

平成29年10月 策定

【基本情報】

病院名	湯布院病院	開設主体	独立行政法人 地域医療機能推進機構			
所在地	大分県由布市湯布院町川南 252 番地					
許可 病床数	病床種別	一般	精神	結核・感染	療養	計
		162			111	273
	病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
			60	171	42	273
稼働 病床数	病床種別	一般	精神	結核・感染	療養	計
		132			111	243
	病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
			60	171	12	243
診療科目 H29.4 現在	内科、整形外科、循環器内科、リハビリテーション科、神経内科、心療内科 (計 6 科)					
附属施設	訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所					

	職種	職員数(人)			
		常勤職員①	非常勤職員		計 (①+②)
			実人員	常勤換算②	
職員数 H29.4 現在	医師	11			11
	看護職員	195	(14)	9.7	204.7
	看護師	142	(4)	2.7	144.7
	介護福祉士	36	(2)	1.6	37.6
	療養介助員	17	(8)	5.4	22.4
	医療技術職員	117	(2)	1.6	118.6
	薬剤師	4			4
	検査技師	5			5
	放射線技師	5	(1)	0.8	5.8
	栄養士	4	(1)	0.8	4.8
	臨床心理士	2			2
	臨床工学技士	1			1
	理学療法士	58			58
	作業療法士	23			23
	言語聴覚士	12			12
	歯科衛生士	2			2
	その他	1			1
	医療社会事業専門員	7			7
	介護支援専門員	1			1
	技能職	12	(4)	3.2	15.2
	事務職	18	(1)	0.1	18.1
		合計	361	(21)	14.6

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○中部医療圏・・・別紙（H28.6大分県地域医療構想）のとおり

【まとめ】

- ・人口は、平成27（2015）年の約57万人から平成37（2025）年には約55.3万人と3.0%減少し、それ以降も減少していく。
- ・65歳以上の高齢者は、平成27年の約15.1万人から平成37年には約17.1万人と13.6%増加し、それ以降も増加傾向となる。
- ・75歳以上の人口は、平成27年の約7.2万人から平成37年には約9.9万人と36.8%と大きく増加し、それ以降も増加傾向となる。
- ・人口10万人当たり病床数は平成26年では1,425.0床で、全国と比較して35.7%多く、県全体と比較して12.6%少ない。
- ・他の医療圏からの患者の流出は、慢性期以外の3つの医療機能において流入が流出を上回っている。
- ・入院患者数は、平成22年を100とした場合、平成37年は123.6%と増加し、それ以降も増加傾向となる。
- ・平成37年の疾患別では、高齢者に多く見られる脳血管疾患（135.4%）、虚血性心疾患（131.0%）、肺炎（136.4%）、骨折（136.4%）が高い増加見込みとなっている。
- ・中部医療圏では、人口が減少するものの、高齢者人口（特に75歳以上人口）の増加に伴って医療需要が増える見込みとなっている。平成25年から平成37年にかけて約3,500人／日（約29%）の需要増が見込まれる。
- ・現状の病床機能報告と必要病床数を比較すると、全体的には776床過剰となるが、回復期の不足（1,674床）が大きく、更に慢性期も不足（177床）することが見込まれる。

○西部医療圏・・・別紙（H28.6大分県地域医療構想）のとおり

【まとめ】

- ・人口は、平成27（2015）年の約9.3万人から平成37（2025）年には約8.2万人と11.6%減少し、それ以降も減少していく。
- ・65歳以上の高齢者は、平成27年の約3.1万人から平成37年には約3.2万人と0.7%微増し、それ以降は減少していく。
- ・75歳以上の人口は、平成27年の約1.7万人から平成37年には約1.9万人と7.6%増加し、それ以降も増加傾向となる。
- ・人口10万人当たり病床数は平成26年では1,516.4床で、全国と比較して44.4%多く、県全体と比較して5.5%少ない。
- ・他の医療圏からの患者の流出は、すべての医療機能において流入が流出を下回っている。
- ・入院患者数は、平成22年を100とした場合、平成37年は99.4%と減少し、それ以降も減少していく。
- ・平成37年の疾患別では、高齢者に多く見られる脳血管疾患（104.7%）、虚血性心疾患（102.6%）、肺炎（105.3%）、骨折（105.3%）が増加見込みとなっている。
- ・西部医療圏では、人口が減少するものの、高齢者人口（特に75歳以上人口）の増加に伴って医療需要が増える見込みとなっている。平成25年から平成37年にかけて約120人／日（約6.5%）の需要増が見込まれる。
- ・現状の病床機能報告と必要病床数を比較すると、全体的には610床過剰となるが、回復期の不足（255床）が見込まれる。

② 構想区域の課題

○中部医療圏・・・別紙（H28.6大分県地域医療構想）から抜粋

- ・中部医療圏は、県内人口の約半数が集中し、大分市や由布市の三次医療機関を中心に高度急性期や急性期を担う基幹病院が充実しており、県内全域から多くの患者が流入しています。
- ・他の医療圏に比べ、高齢化や人口減少が遅れて進むことから、平成 47(2035)年頃まで医療需要が大きく増加する見込みであり、そのための体制の確保が課題です。
- ・現状の病床機能報告と必要病床数を比較すると、回復期の不足が大きく見込まれるとともに、慢性期病床の不足も特徴です。
- ・中部地域医療構想調整会議では、「高度急性期から在宅医療まで連携した体制が必要。」、「地域の医師会をはじめ様々な関係団体の連携が不可欠。」、「かかりつけ医や在宅医療の核となる機能をもつ有床診療所が減少している。」、「複数の疾病を抱える高齢者の増加が予想されるため、総合診療医や内科総合医の養成が必要。」などの課題が指摘されています。

○西部医療圏・・・別紙（H28.6大分県地域医療構想）から抜粋

- ・西部医療圏では、中部医療圏や福岡県の久留米医療圏などと連携した対応があり、圏域内の医療提供体制を確保することが課題となっています。
- ・現状の病床機能報告と必要病床数を比較すると、回復期の不足が見込まれており、急性期からの転換を中心にその確保が求められています。
- ・西部地域医療構想調整会議では、「過疎地では診療所が行き場のない患者を支えており、診療所を維持できるような取組が必要である。」、「医療資源が不足しており、療養病床を廃止するのではなく、よりよい形で転換・活用することが必要である。」、「在宅療養患者は一様ではない。在宅専門医、かかりつけ医、介護施設等による医療の提供等役割分担が必要である。」、「地域で完結させるためには、まず人材の確保が必要である。」などの課題が指摘されています。

③ 自施設の現状

JCHO湯布院病院は、下図のとおり大分県における二次医療圏のうち中部医療圏に属しているが、西部医療圏の九重町と玖珠町とも隣接しており、当院を通院圏内とする地域は、由布市、九重町、玖珠町となる。

[図：大分県の二次医療圏]



一般病床又は療養病床を有する病院（総病床数）

（由布市）①JCHO湯布院病院（273床）、②日野病院（60床）、③岩男病院（45床）、

④大分大学医学部附属病院（618床）

（玖珠町）⑤玖珠記念病院（48床）、⑥小中病院（39床）、⑦高田病院（58床）

（九重町）なし

1 隣接地域（由布市、九重町、玖珠町）の概況

（1）人口及び高齢化の状況

- 由布市、九重町、玖珠町の人口は、平成27(2015)年の約5.9万人から減少が進み、平成37(2025)年には約5.3万人（平成27(2015)年から10.3%減）、平成52(2040)年には約4.4万人（同25.7%減）となる見込みです。
- また、65歳以上の高齢者は平成32(2020)年をピークに減少し、平成37(2025)年には約2.0万人（同0.6%減）、平成52(2040)年には約1.7万人（同14.9%減）まで減少する見込みです。
- なお、75歳以上の人口は、平成37(2025)年に約1.3万人（同8.9%増）と増加する見込みであり、その後は平成42(2030年)頃をピークに減少する見込みです。

[高齢者人口及び高齢化率の推移（中部医療圏）]

①中部医療圏(うち由布市(湯布院町・庄内町・挾間町)のみ)							
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52
総人口	34,702	33,657	32,411	31,066	29,702	28,326	26,900
65歳以上人口	10,066	11,022	11,425	11,212	10,792	10,323	10,026
うち65～74歳人口	4,397	4,837	5,073	4,222	3,530	3,279	3,394
うち75歳以上人口	5,669	6,185	6,352	6,990	7,262	7,044	6,632
②西部医療圏(うち九重町・玖珠町のみ)							
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52
総人口	27,475	25,613	23,852	22,086	20,354	18,713	17,140
65歳以上人口	9,064	9,473	9,539	9,152	8,605	7,965	7,425
うち65～74歳人口	3,849	4,077	4,214	3,525	2,913	2,548	2,426
うち75歳以上人口	5,215	5,396	5,325	5,627	5,692	5,417	4,999
③由布市+九重町+玖珠町							
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52
総人口	62,177	59,270	56,263	53,152	50,056	47,039	44,040
65歳以上人口	19,130	20,495	20,964	20,364	19,397	18,288	17,451
うち65～74歳人口	8,246	8,914	9,287	7,747	6,443	5,827	5,820
うち75歳以上人口	10,884	11,581	11,677	12,617	12,954	12,461	11,631

資料：平成22(2010)年～平成52(2040年)は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）。

（2）病床数の推移

- 由布市、九重町、玖珠町の病床数（一般病床及び療養病床）は平成26(2014)年10月現在、一般病床1,153床、療養病床195床、合計1,348床となっており、人口10万人当たりでは、全国や県全体と比較し、一般病床・療養病床ともに由布市では多く、九重町・玖珠町では少ないのが特徴です。
- また、平成16(2004)年からの10年間で30床（2.2%）の減となっており、このうち、病院が8床（0.7%）の増、診療所が38床（15.3%）の減と、診療所の病床数の減少が顕著となっています。

[病床数の推移（中部医療圏）]

①中部医療圏(うち由布市(湯布院町・庄内町・挾間町)のみ)										33,826 ←人口		
		H16	H18	H20	H22	H24	H26	増減数 H16→26	増減割合 (%)	人口10万対(H26)		
										中部医療圏	大分県	全国
病院	一般病床	742	774	774	774	834	848	106	14.3	2,506.9	1,006.8	703.6
	療養病床	242	204	204	204	144	144	△98	△40.5	425.7	248.2	258.2
	計	984	978	978	978	978	992	8	0.8	2,932.7	1,255.0	961.9
診療所	一般病床	133	133	119	119	119	119	△14	△10.5	351.8	317.0	79.4
	療養病床	14	14	9	9	9	9	△5	△35.7	26.6	32.9	9.0
	計	147	147	128	128	128	128	△19	△12.9	378.4	349.8	88.4
計	一般病床	875	907	893	893	953	967	92	10.5	2,858.7	1,323.8	783.1
	療養病床	256	218	213	213	153	153	△103	△40.2	452.3	281.0	267.2
	計	1,131	1,125	1,106	1,106	1,106	1,120	△11	△1.0	3,311.1	1,604.8	1,050.3

②西部医療圏(うち九重町・玖珠町のみ)										25,757 ←人口		
		H16	H18	H20	H22	H24	H26	増減数 H16→26	増減割合 (%)	人口10万対(H26)		
										西部医療圏	大分県	全国
病院	一般病床	100	115	115	115	115	115	15	15.0	446.5	1,006.8	703.6
	療養病床	45	30	30	30	30	30	△15	△33.3	116.5	248.2	258.2
	計	145	145	145	145	145	145	0	0.0	563.0	1,255.0	961.9
診療所	一般病床	69	69	56	56	56	71	2	2.9	275.7	317.0	79.4
	療養病床	33	33	27	27	27	12	△21	△63.6	46.6	32.9	9.0
	計	102	102	83	83	83	83	△19	△18.6	322.2	349.8	88.4
計	一般病床	169	184	171	171	171	186	17	10.1	722.1	1,323.8	783.1
	療養病床	78	63	57	57	57	42	△36	△46.2	163.1	281.0	267.2
	計	247	247	228	228	228	228	△19	△7.7	885.2	1,604.8	1,050.3

③由布市+九重町+玖珠町										59,583 ←人口		
		H16	H18	H20	H22	H24	H26	増減数 H16→26	増減割合 (%)	人口10万対(H26)		
										中部+西部	大分県	全国
病院	一般病床	842	889	889	889	949	963	121	14.4	1,616.2	1,006.8	703.6
	療養病床	287	234	234	234	174	174	△113	△39.4	292.0	248.2	258.2
	計	1,129	1,123	1,123	1,123	1,123	1,137	8	0.7	1,908.3	1,255.0	961.9
診療所	一般病床	202	202	175	175	175	190	△12	△5.9	318.9	317.0	79.4
	療養病床	47	47	36	36	36	21	△26	△55.3	35.2	32.9	9.0
	計	249	249	211	211	211	211	△38	△15.3	354.1	349.8	88.4
計	一般病床	1,044	1,091	1,064	1,064	1,124	1,153	109	10.4	1,935.1	1,323.8	783.1
	療養病床	334	281	270	270	210	195	△139	△41.6	327.3	281.0	267.2
	計	1,378	1,372	1,334	1,334	1,334	1,348	△30	△2.2	2,262.4	1,604.8	1,050.3

資料：厚生労働省「医療施設調査」（各年10月1日現在）

(3) 患者の流出入の状況

※ 大分県地域医療構想の中部医療圏、西部医療圏と同。

(4) 入院患者数の推計

○ 入院患者数について、平成22(2010)年を100とした場合の推計を見ると、今後、平成27(2015)年から平成37(2025)年頃をピークに、総数で101~102%程度まで微増し、平成42(2030)年頃から減少に転ずる見込みです。

[入院患者数の推計（由布市、九重町、玖珠町）]

・由布市、九重町、玖珠町							
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52
由布市	100.00%	103.95%	104.30%	106.08%	105.39%	101.66%	96.78%
九重町	100.00%	100.03%	97.03%	94.41%	90.64%	84.14%	77.03%
玖珠町	100.00%	99.56%	96.76%	95.93%	92.76%	87.40%	81.05%
計	100.00%	101.99%	100.83%	101.03%	99.07%	94.36%	88.64%

資料：産業医科大学公衆衛生学教室「地域別人口変化分析ツールAJAPA」。

2 自施設の概要

(1) 自院の理念・基本方針

①独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）

理念「我ら全国ネットのJCHOは 地域の住民、行政、関係機関と連携し 地域医療の改革を進め 安心して暮らせる地域づくりに貢献します」

キャッチフレーズ「安心の地域医療を支えるJCHO」

②JCHO湯布院病院

理念「地域で人々が幸せに暮らしていくために、リハビリテーションを核とした地域医療を推進します」

基本方針

- ・患者さん・利用者さんとその家族のために
患者さん、利用者さんおよびその家族を中心に考えます
- ・職員の幸せのために
やりがいを感じて仕事に取り組んでいける職場をつくります
- ・地域のために
地域に根ざし、地域に感謝され、地域に真に必要とされる病院を目指します

(2) 自院の診療実績

・届出入院基本料等

一般病棟入院基本料10対1（60床）、地域包括ケア病棟入院料1（111床）、回復期リハビリテーション病棟入院料1（60床）、緩和ケア病棟入院料（12床）

・1日平均患者数（平成29年4～8月累計）

入院：182.9人（一般病床91.4人、療養病床91.5人）

外来：112.3人

・平均在院日数（平成29年4～8月累計）

全体：49.3日（一般病床25.2日、療養病床58.8日）

・病床利用率（平成29年4～8月累計）

全体：75.3%（一般病床69.2%、療養病床82.5%）

(3) 自院の特徴

- ・リハビリテーションを核とした地域医療を推進しており、大分県リハビリテーション支援センターに指名されている。
- ・救急告示病院として、特に由布市、玖珠町、九重町から急患を受け入れている。
- ・病床機能は高度急性期を除き急性期から慢性期まで対応している。
- ・訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を併設し、アウトリーチ活動にも力を入れている。
- ・温泉観光地「湯布院」に位置しており風光明媚な景観を有している。

(4) 自院で担っている政策医療

- ・救急告示
- ・在宅療養後方支援病院

(5) 他の機関との連携

- ・大分県リハビリテーション支援センター（県リハ支援センター）として大分県から委託されており、6圏域11広域支援センターと19の職能団体と協力して地域リハビリテーションの啓蒙・普及に努めている
- ・また、県リハ支援センターが事務局となっている、大分災害リハビリテーション推進協議会（大分JRAT）と大分県とで「災害時のリハビリテーション支援活動に関する協定書」を締結し、災害時における被災者の医療救護の協力を行っている。
- ・由布地域包括ケア推進協議会（実施主体：湯布院病院、地区医師会、中部保健所）は、「要介護状態にある高齢者に限らず疾病や障がいがあっても可能な限り住み慣れた地域で生活することができるよう、多職種間の連携が円滑に機能する支援体制の構築を目的」として由布市から委託され、当院は主体的・実践的に協働している。

④ 自施設の課題

(1) 現状及び将来の推計を踏まえた課題

- 由布市の東端（挾間町）には、大分県の基幹病院である大分大学医学部附属病院が位置しているが、JCHO湯布院病院から車で1時間程度の距離にあり、その間には診療所を除き病院は存在しない。
- 由布市は過疎地域とみなされる区域を有する市町村（総務省：過疎関係市町村都道府県別分布図H29.4）であり、九重町及び玖珠町は過疎市町村（同）と公示されており、大分大学医学部附属病院を除き高度急性期病床はない。
- その中で、当院が存在する湯布院町は、由布市、九重町および玖珠町の中心に位置している。
- 由布市、九重町、玖珠町では、2015年と2025年の推計を比べると、人口は10.3%減少、更に65歳以上の高齢者は0.6%減少するものの、75歳以上の人口は8.9%増加するため、医療需要は横ばいの見込みである。

(2) 大分県地域医療構想から自施設に関する課題を抜粋（自施設分は下線部分）

○中部医療圏

- ・ 中部医療圏は、県内人口の約半数が集中し、大分市や由布市の三次医療機関を中心に高度急性期や急性期を担う基幹病院が充実しており、県内全域から多くの患者が流入しています。
- ・ 他の医療圏に比べ、高齢化や人口減少が遅れて進むことから、平成47(2035)年頃まで医療需要が大きく増加する見込みであり、そのための体制の確保が課題です。
- ・ 現状の病床機能報告と必要病床数を比較すると、回復期の不足が大きく見込まれるとともに、慢性期病床の不足も特徴です。
- ・ 中部地域医療構想調整会議では、「高度急性期から在宅医療まで連携した体制が必要。」、「地域の医師会をはじめ様々な関係団体の連携が不可欠。」、「かかりつけ医や在宅医療の核となる機能をもつ有床診療所が減少している。」、「複数の疾病を抱える高齢者の増加が予想されるため、総合診療医や内科総合医の養成が必要。」などの課題が指摘されています。

○西部医療圏

- ・ 西部医療圏では、中部医療圏や福岡県の久留米医療圏などと連携した対応があり、圏域内の医療提供体制を確保することが課題となっています。
- ・ 現状の病床機能報告と必要病床数を比較すると、回復期の不足が見込まれており、急性期からの転換を中心にその確保が求められています。
- ・ 西部地域医療構想調整会議では、「過疎地では診療所が行き場のない患者を支えており、診療所を維持できるような取組が必要である。」、「医療資源が不足しており、療養病床を廃止するのではなく、よりよい形で転換・活用することが必要である。」、「在宅療養患者は一律ではない。在宅専門医、かかりつけ医、介護施設等による医療の提供等役割分担が必要である。」、「地域で完結させるためには、まず人材の確保が必要である。」などの課題が指摘されています。

[現状(病床機能報告)と必要病床数の比較 (由布市、九重町、玖珠町)]

①中部医療圏(H28.6大分県地域医療構想)				
	病床機能報告 (2014年)(床)	必要病床数 (2025年)(床)	2014年 -2025年	2025年 総人口
高度急性期	826	759	67	
急性期	4,585	2,545	2,040	
回復期	897	2,571	△1,674	
慢性期	1,286	1,463	△177	
未選択等	520		520	
計	8,114	7,338	776	552,631
②西部医療圏(H28.6大分県地域医療構想)				
	病床機能報告 (2014年)(床)	必要病床数 (2025年)(床)	2014年 -2025年	2025年 総人口
高度急性期	6	55	△49	
急性期	780	245	535	
回復期	114	369	△255	
慢性期	292	141	151	
未選択等	228		228	
計	1,420	810	610	82,278
③中部+西部(①+②)				
	病床機能報告 (2014年)(床)	必要病床数 (2025年)(床)	2014年 -2025年	2025年 総人口
高度急性期	832	814	18	
急性期	5,365	2,790	2,575	
回復期	1,011	2,940	△1,929	
慢性期	1,578	1,604	△26	
未選択等	748	0	748	
計	9,534	8,148	1,386	634,909
①中部医療圏(うち由布市(湯布院町・庄内町・挾間町)のみ)				
	病床機能報告 (2014年)(床)	必要病床数 (2025年)(床)	2014年 -2025年	2025年 総人口
高度急性期	588	588	0	
急性期	225	143	82	
回復期	199	145	54	
慢性期	103	82	21	
未選択等			0	
計	1,115	958	157	31,066
②西部医療圏(うち九重町・玖珠町のみ)				
	病床機能報告 (2014年)(床)	必要病床数 (2025年)(床)	2014年 -2025年	2025年 総人口
高度急性期	0	15	△15	
急性期	87	66	21	
回復期	0	99	△99	
慢性期	77	38	39	
未選択等	59		59	
計	223	217	6	22,086
③由布市+九重町+玖珠町				
	病床機能報告 (2014年)(床)	必要病床数 (2025年)(床)	2014年 -2025年	2025年 総人口
高度急性期	588	603	△15	
急性期	312	209	103	
回復期	199	244	△45	
慢性期	180	120	60	
未選択等	59	0	59	
計	1,338	1,175	163	53,152

①由布市・九重町・玖珠町の必要病床数は、各医療圏の総人口と必要病床数から按分して算出した。

②ただし、由布市の高度急性期は、大分大学附属病院病床数と同数とした。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

○ JCHO湯布院病院は、由布市、九重町、玖珠町の中心にあり、比較的遠方に位置する由布市挾間町の病院・診療所（大分大学医学部附属病院等）を除き、この地域の病院・診療所の病床機能における最大病規模の急性期病床（平成29（2017）年：60床）を保持している。

また、この地域唯一の救急告示病院となっており、救急医療の充実を図り大分大学医学部附属病院等の基幹病院へつなげるために、総合診療医の充実を図る必要がある。

[病床機能報告（H26.7.1時点）]

地域	種類	施設名	高度	急性期	回復期	慢性期	無回答	計
湯布院町	病院	JCHO湯布院病院		111	180			291
湯布院町	病院	日野病院				60		60
湯布院町	病院	岩男病院		29		24		53
玖珠町	病院	高田病院				58		58
玖珠町	病院	玖珠記念病院		48				48
玖珠町	病院	小中病院		39				39
玖珠町	診療所	長内科小児科胃腸科医院					19	19
玖珠町	診療所	友成医院				19		19
玖珠町	診療所	小野眼科医院					2	2
九重町	診療所	矢原医院					19	19
九重町	診療所	友成医院					19	19
計		11施設	0	227	180	161	59	627

② 今後持つべき病床機能

○ 当院の隣接地域（由布市、九重町、玖珠町）では、2025年に向けて、総人口は減少するものの75歳以上人口は増加し入院患者数では横ばいという推計になっている。

○ また、2014年病床機能報告と2025年必要病床数の比較では、総数では過剰となるものの回復期では不足するという見込みとなっている。更に、当院が属している中部医療圏では、慢性期が不足する見込みである。

○ 当院の平成28年度病床機能報告は、急性期60床、回復期171床、慢性期42床、計273床としており、次の理由により2025年も継続することが必要と考えている。

- ・急性期60床→救急告示病院として急患を受け入れるために必要。
- ・回復期171床→近隣地域、中部医療圏ともに回復期は不足しており現状維持とする。
- ・慢性期42床→景観地として療養環境に優れており、近隣地域を超えて紹介患者の増加が期待でき、また中部医療圏では慢性期が不足する見込みであり必要と考える。

[JCHO湯布院病院の必要病床数の推計]

・JCHO湯布院病院の病床機能別目標患者数						
	高度急性期	急性期	回復期	回復期	慢性期	計
	—	東3(一般)	西4(回復リハ)	西3・東2(包括)	東4(緩和)	
H29(2017)'事業計画		45	55	99	6	205
H30(2018)'		45	54	100	9	208
H31(2019)'～H32(2020)'		47	54	100	11	212
H33(2021)'～H35(2023)'		47	54	100	39	240

・JCHO湯布院病院の必要病床数の推計(大分県地域医療構想の病床機能別病床稼働率より)						
	高度急性期	急性期	回復期	回復期	慢性期	計
	75%	78%	90%	90%	92%	
H29(2017)'事業計画	0	58	61	110	7	236
H30(2018)'	0	58	60	111	10	239
H31(2019)'～H32(2020)'	0	60	60	111	12	243
H33(2021)'～H35(2023)'	0	60	60	111	42	273

③ その他見直すべき点

○ 医師の確保

西部地域医療構想調整会議において、「地域で完結させるためには、まず人材の確保が必要である。」等の課題が指摘されたが、当院においても医師確保が困難な状況にあり、医師が不足している。今後、当院が地域医療を展開していく中で、医師確保は喫緊の課題である。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	60		60
回復期	171		171
慢性期	42		42
(合計)	273		273

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	医師の確保	11名 (H29.4) →11名 (H30.4)	<p>集中的な検討を促進 2年間程度で</p> <p>第7期 介護保険 事業計画</p> <p>第7次 医療計画</p> <p>第8期 介護保険 事業計画</p>
2018年度	医師の確保	11名 (H30.4) →13名 (H31.4)	
2019～2020 年度	医師の確保 病院の建替	13名 (H31.4) →15名 (H33.4) 検討・準備・計画	
2021～2023 年度	医師の確保 病院の建替 稼働病床の増床	15名 (H33.4) →18名 (H35.4) 実施・完成 慢性期病床12床→42床	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u> ※「現状」は平成29年4～8月累計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床利用率： 現状75.3%→計画84.0% ・ 手術室稼働率： 現状14.0%→計画14.0% ・ 紹介率： 現状25.1%→計画43.0% ・ 逆紹介率： 現状31.9%→計画58.0% <p><u>経営に関する項目</u>*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率： 現状71.7%→計画66.5% ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合： 現状0.3%→計画0.3% <p>その他：</p>

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)